

研究室/学校紹介

臨床検査学教育 Vol.3, No.2 p.100~102, 2011.

福島県立総合衛生学院

篠 崎 浩 作*

I. 福島県立総合衛生学院

1. 本学院の沿革と現状

本学院は、県内の保健医療機関の需要に応えるため、昭和 46 年に設立され、今年度は創立 40 周年を迎える。

本学院の設立時は、県立の保健婦助産婦専門学院、福島高等看護学院、歯科衛生専門学院、そして衛生検査技師養成所(その前身は衛生技術員養成所)の 4 施設が統合され、それぞれ保健助産学科(1 年課程・定員 25 名)、看護学科(2 年課程・定員 40 名)、歯科衛生学科(1 年課程・定員 30 名)、衛生検査学科(2 年課程、定員 20 名)としてスタートした。

衛生検査学科は、昭和 48 年に、「臨床検査学

科」に改称され、かつ、2 年課程から 3 年課程に延長された。

また、保健助産学科は、昭和 52 年度、保健学科(1 年課程・定員 30 名)と助産学科(1 年課程・定員 20 名)に分かれ、平成 18 年保健師の養成を停止した。

また、歯科技工学科が、昭和 54 年度に新設(2 年課程・定員 20 名)されたが、平成 22 年度、歯科技工士の養成を停止した。

したがって、本学院には、現在、助産学科(1 年課程・定員 20 名)、看護学科(2 年課程・定員 50 名)、歯科衛生学科(3 年課程・定員 20 名)及び臨床検査学科(3 年課程・定員 20 名)の 4 学科がある。



写真 1 学院全景

* shinozaki_kousaku_01@pref.fukushima.jp



写真2 校章

六弁の花をのせて鳥が飛び立つ姿である。「鳥」は学生の将来へ向かう大きな希望と本学院の発展を託し、本学院の所在地が花見山に代表される花の里であることから「花」をあしらい、その花弁は6学科を表している。

2. 本学院の目的

臨床検査技師等の業務に必要な知識及び技術を習得させ、社会環境の変化、疾病構造の多様化、医療の進歩に対応できる優れた人材を育成することを目的とする。

3. 本学院の使命

生命の尊厳を基盤として、博愛と協調の精神を培うとともに、各学科の専門性、特殊性を生かした総合的な教育をとおして、医療従事者として必須となる相互理解と連携強化の在り方等について学び、保健・医療・福祉に寄与できる人材の育成を使命とする。

II. 臨床検査学科

1. 主な学習内容

1年次：基礎科目(化学・生物など)、専門教育科目(解剖学・病理学など)等、医学の基礎となる科目を中心に学習する。

2年次：専門科目を中心に検査の知識を深め、学内実習で検査の技術を身に付ける。

3年次：臨地実習は、2年次までに学んだ知識・技術の総まとめとして、医療の現場(福島県立医科大学)で実習を行う。

2. スタッフ及び実習施設等

学院のスタッフは、学科長、科部長(医師)、教務4名及び専門員の7名である。

そのほか、県立医科大学や福島大学の教授はじめ教員スタッフ、OB等に講師をお願いしている。

また、実習施設では、学内施設の他、県立医科大学に施設の提供及び実習指導をお願いしている。

このように、医学部学生にも匹敵する、優れた教員スタッフと充実した実習施設が本学院の特色である。

3. 学生の出身地、国家試験合格率、就職先等

当科へは、福島県内はもちろん、岩手県、宮城县、山形県をはじめ、全国各地から定員の約4～5倍の応募・受験者がある。高い倍率で、入学者はある程度のレベルを維持できていると考えている。

入学者は、県内出身者は約3～4割、県外出身者は6～7割で、例年大きな変化はない。当科は、本学院で最も県外者に開かれた学科と言うことができよう。

国家試験合格率は、最近5カ年の平均は93%で、例年ほぼ全国平均を上回っている。

就職については、例年、約25倍の求人があり、県内の医療機関と県外の医療機関へそれぞれ5割ずつ就職している。最近の特徴としては、3年間の学習の中から、更なる勉学・研究・高資格取得への意欲が芽生え、大学への編入学等進学者が平均3名あることは歓迎すべきことであると考える。

**臨床
検査
学科**

<1年生>入学してから3ヵ月が過ぎました。大半の学生は、初めての土地で初めての一人暮らしという不安の多いスタートだったと思いますが、だいぶ慣れてきたように感じます。学業面では、1コマ90分の講義を中心に実習やレポート作成、そして試験と充実した毎日を送っています。また、6月に行われた球技大会では、「ずんだ」のTシャツを着てクラスが一致団結し、卓球は見事準優勝でした。



約半年の臨地実習が始まりました。少人数のグループで各部門を回り、医師、看護師、臨床検査技師の指導の下、緊張しながらも楽しく充実した実習を行っています。一刻を争う医療の現場で活躍する先輩技師の姿を間近にみて、患者様への接遇などに戸惑いながらも日々成長しています。これから就職、国家試験へとますます勉学に励まなければなりませんが、共に学ぶクラスメイトと目標を達成してほしいと思います。



<2年生>講義は1年生に比べると専門科目が増えており、興味深い反面難しくなってきました。実習内容も検査技師としてより実践的な内容となってきています。大学への編入を目指す学生もいて、それぞれ目標に向かって積極的に勉学に励んでいます。クラスの雰囲気はとても和気藹々としていてチームワークもよくとれています。球技大会では、バレーボールの決勝戦で3年生に勝ち、優勝しました。



写真3 学院便り(平成23年7月7日発行から—臨床検査学科—)

3.11震災の影響の中で学生が多くを学び、元気に学院生活を送る様子を伝えました。編集後記は「過去の延長線には描けないこれから福島、東北、日本を創る若者たちの柔軟でたくましい力を信じ、伸びる力を支援するために、今ある課題に取り組んでいきたい」と結んでいます。

III. おわりに

【臨床検査技師育成における専修学校～本学院 臨床検査学科～の存在意義について】

現在のカリキュラム内容は、3年制専修学校では時間に余裕がなく、4年制大学での教育が望ましいと思われるが、4年制大学となると、学生の意識は専修学校生の意識とはかなりの差が見られるようになると言われている。

3年制専修学校の特徴は、目的意識がはっきりしているため、早期に資格を取り、自立し、社会

に貢献することを希望している者に応えることができるにある。現に、本学院においても、4年制大学を卒業後資格の取得を目標として来る者、経済的理由から早く資格を取得し就業したい者など、臨床検査技師になる明確な意識を持ち応募する者が多い。

また、大学に編入学して、勉学を継続する道も選択できることは魅力である。「実学」を究めようとする中から「理学」に関心を持ち、進むことは、自然で好ましいことであり、進化であると考える。